

TOSHIBA

東芝パッケージエアコン〈天井カセット形〉4方向吹出しタイプ
据付説明書



EB99835301

R410A冷媒機種

＜室内ユニット＞

MMU-UP281H MMU-UP801HD
MMU-UP361H MMU-UP901H
MMU-UP451H MMU-UP901HD
MMU-UP561H MMU-UP1121H
MMU-UP711H MMU-UP1401H
MMU-UP801H MMU-UP1601H

＜天井パネル：別売品＞

RBC-U41PG(W) (標準パネル)
RBC-U41PG(C) (標準パネル)
RBC-U41PG(N) (標準パネル)
RBC-U41PG(K) (標準パネル)

＜リモコン：別売品＞

RBC-AMSU51 (省エネ neo リモコン)
RBC-ATX41 (ワイヤレスリモコン)
RBC-AXRU41U (ワイヤレスリモコン受信部)

お知らせ

- このエアコンは通信仕様が新規です。一部の配線仕様が従来とは異なりますのでご注意ください。
- このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系R410A冷媒を使用しています。
- 本説明書は室内ユニット側の据付工事方法を記載してあります。
- 室外機の据付は、室外機に付属している据付説明書に従ってください。
- この室内ユニットはR410A冷媒用です。室外機は必ずR410A冷媒用と組み合わせてください。
- 室内ユニットの電源は室外機とは別に専用電源を設けてください。
- 室内ユニットと室外機の配管接続には別売の分岐ジョイントまたは分岐ヘッダーが必要です。容量に合わせて選定してください。
- 天井パネルとリモコンは別売です。取付は、各別売品に付属している取付説明書に従ってください。
- ワイヤレスタイプは、ワイヤレスリモコン受信部（別売品）を標準パネルに取り付ける仕様となります。
(ワイヤレス操作するには、ワイヤレスリモコン受信部以外にワイヤレスリモコン（別売品）が必要になります。)
- リモコンの詳細設定内容は、リモコンに付属している据付説明書をご覧ください。

付属部品

部 品 名	個数	形 状	用 途	部 品 名	個数	形 状	用 途
保 証 書	1	—	(お客様に必ず渡してください。)	偏心ワッシャー	4		ユニット吊り下げ用
据 付 説 明 書	1	本紙	(お客様に必ず渡してください。)	ホースバンド	1		ドレン配管接続用
据 付 用 型 紙	1	—	天井開口と本体位置確認用	フレキシブルホース	1		ドレン配管芯出し調整用
据 付 ゲージ	1		天井位置決め用 (据付用型紙と一体)	断 熱 材	1		ドレン接続部断熱用
断 熱 パイプ	2		配管接続部断熱用	断 熱 材	1		配線接続口シール用
ワッシャー	4		ユニット吊り下げ用	結 束 バンド	4		断熱パイプ固定用

もくじ

安全上のご注意	2
エアコンの据付について	3
据付場所の選定	3
1.室内ユニットの据付	5
2.ドレン配管	6
3.冷媒配管	7
4.電気配線	8
5.応用制御	12
6.試運転	14
7.故障診断	15
8.室内ユニット設定確認	17
9.フロン排出抑制法による冷媒充填量記載のお願い	18






◇お客様への引き渡し


- 「保証書」「取扱説明書」とこの「据付説明書」を必ずお客様に渡してください。
- 「保証書」には必ず所定の事項（★印箇所）をご記入のうえ、お客様にお渡しください。
- 「取扱説明書」の内容を十分ご説明のうえ、引き渡しをお願いします。
(取扱説明書は室外機に付属されています。)

日本国内専用品
Use only in Japan

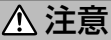
安全上のご注意

●お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための安全に関する重大な内容を記載しています。
次の内容（表示・図記号）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

表示の説明		図記号の説明	
	警告 “取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷（※ 1）を負うことが想定される内容”を示します。		禁止 ○は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
	注意 “取扱を誤った場合、使用者が軽傷（※ 2）を負うことが想定されるか、または物的損害（※ 3）の発生が想定される内容”を示します。		指示 ●は、指示する行為の強制（必ずすること）を示します。具体的な指示内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。
* 1: 重傷とは、失明やけが・やけど（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。 * 2: 軽傷とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど、感電などをさします。 * 3: 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。			注意 △は、注意を示します。 具体的な注意内容は、図記号の中や近くに絵や文章で指示します。

**警告**

- 据付工事は R410A 用に製造された専用のツール・配管を使用し、この据付説明書に従って確実に行う
使用している HFC 系冷媒（R410A）は、R22 に比べ圧力が約 1.6 倍高くなります。
専用の配管部材を使用しなかったり、据付に不備があると破裂・けが、また水漏れや感電・火災の原因になります。
- 据付は、販売店または専門業者に依頼する
ご自分で据付工事をされると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う
据付に不備があると、水漏れや感電・火災の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要
限界濃度を超えない対策については、販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因となります。
- フロン類をみだりに大気中に放出しない
フロン類を大気中に放出することは法律により禁止されています。
- 据付は、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。
- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 電気工事（アース工事を含む）は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付ける
法律により D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 据付作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取り付ける
冷媒配管が取り付けられておらず、サービスバルブ開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。
- ポンプダウン作業では、冷媒配管をはずす前に圧縮機を停止する
圧縮機を運転したままサービスバルブ開放状態で冷媒配管をはずすと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂・けがなどの原因になります。
- ダクトを設置する場合、ダクトが防火区画を貫通する場合は不燃材のダクトを使用し、防火・防災ダンパーを設ける
火災の際、延焼のおそれがあります。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材（バテなど）で埋める
- 可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。
- 漏電遮断器（過電流保護機能付き）が正しく取り付けられているか確認する
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
確認方法については、据付を行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。

**注意**

- フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締め付ける
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になることがあります。
- 据付作業のときは手袋（※）を着用する
着用しないと部品などにより、けがをする原因になります。（※軍手などの厚手の手袋）
- ろう付け作業を行う場合は、冷媒の漏洩や残留がないか確認する
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- 据付や移設を行う場合、ガス・石油燃焼器・電気ヒーターなどの火元（着火源）となるものは十分遠ざける
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生したり、着火の原因になります。
- ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱する
配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気を発生させる機器近傍に室内ユニットを設置しない
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。
- エアコンの吹出口は火災報知器より 1.5m 以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。
- 水を注入するときはゆっくりと注入する
勢いよく注入すると、室内ユニットの内部に散布され機器の故障の原因となります。



エアコンの据付について

このエアコンはオゾン層を破壊しないHFC系冷媒（R410A）を採用しています。

- R410A冷媒は圧力が高く、水分・酸化皮膜・油脂などの不純物の影響を受けやすいため、据付工事のときに水分・ゴミ・他の冷媒や冷凍機油などが冷凍サイクル内に混入しないよう注意が必要です。
- 冷媒や冷凍機油の混入を防ぐため、本体チャージ口や据付ツールの接続部分のサイズをR22冷媒用と違えており、下記のR410A専用ツールが必要です。
- 接続配管はクリーンな新品の配管部材を使用し、水分・ゴミを混入させないように施工してください。
- 既設配管を流用する場合は、室外機に付属の据付説明書に従ってください。

このエアコンは通信仕様が新規です。（TCC－LINK.u）

- TCC-LINK.uモデル（Uシリーズ）にTCC-LINKモデル（Uシリーズ以外）が組み合わされた場合、配線仕様や室内ユニットの最大接続台数が変化します。
- 機器の据付時や修理・メンテナンス時は付属の説明書に従ってください。（詳しくは『電気配線』をご覧ください。）

必要器材および取扱上の注意点

据付工事を行うために、下表に示す工具・器材を準備する必要があります。
これらの中で新規に準備する工具・器材は、必ず専用品としてください。

記号の説明 ○：R410A専用（R22・R407Cと使い分けが必要） △：R22用工具を流用可

使用する機器	用 途	工具・器材の使い分け
ゲージマニホールド	真空引き冷媒充填	◎ R410A 専用
チャージングホース	および運転チェック	◎ R410A 専用
チャージングシリンダー	冷媒充填	使用不可（冷媒充填ハカリによること。）
ガス漏れ検知器	ガス漏れチェック	◎ R410A 専用
真空ポンプ	真空乾燥	逆流防止アダプタを取り付ければ使用可
逆流防止付き真空ポンプ	真空乾燥	△ R22 用流用可
フレアツール	配管のフレア加工	△寸法の調整で使用可
ベンダー	配管の曲げ加工	△ R22 用流用可
冷媒回収機	冷媒の回収	◎ R410A 専用
トルクレンチ	フレアナットの締め付け	◎φ 12.7、φ 15.9 用は専用
パイプカッター	配管の切断	△ R22 用流用可
冷媒ポンペ	冷媒充填	◎ R410A 専用 識別：冷媒名記載
溶接機・窒素ボンベ	配管の溶接	△ R22 用流用可
冷媒充填ハカリ	冷媒充填	△ R22 用流用可

冷媒配管について

このエアコンの据付には、R410A冷媒対応のフレア方式配管キットを使用してください。

■ R410A 冷媒用配管キットを使用する場合

エアコンの据付に使用する配管キットには、配管の梱包箱に冷媒種・対応冷媒名・配管肉厚が表示されています。このエアコンの据付には必ず、

冷媒種：2種、対応冷媒名：R410A

と表示されている配管を使用してください。（適用冷媒種は、配管の断熱材被覆にも約1mごとに記号化して表示してあります。この表示が「②」のものを使用してください。）また、フレア加工・フレアナットもR410A冷媒用のものが必要ですが、この表示のある冷媒配管キットでフレアナットが付き、フレア加工してあるものは、そのまま使用できます。

■ R410A 冷媒用配管キットを使用しない場合

1. 他の配管キットを使用する場合

- 適用冷媒種の表示のない配管キットを使用する場合は、必ず、配管肉厚がφ 6.4、φ 9.5、φ 12.7は0.8mm、

φ 15.9は1.0mm、φ 19.1、φ 22.2、φ 25.4は1/2H材で1.0mmのものを使用してください。
配管肉厚が上記以下の薄肉配管は、耐圧強度が不足しますので絶対に使用しないでください。

2. 一般の銅管を使用する場合

- 銅管はJIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプで、内部の付着油量40mg／10m以下、配管肉厚はφ 6.4、φ 9.5、φ 12.7は0.8mm、φ 15.9は1.0mm、φ 19.1、φ 22.2、φ 25.4は1/2H材で1.0mmのものを使用してください。上記以外の薄肉配管は、絶対に使用しないでください。

3. フレアナットおよびフレア加工

- フレアナットはエアコン本体付属のもの、またはR410A用を使用してください。
- フレア加工は『冷媒配管の接続』をご覧ください。

据付場所の選定

⚠ 警告

可燃性ガスの漏れるおそれのある場所への設置は行わない
万一ガスが漏れて室内ユニットの周囲に溜まると、発火の原因になることがあります。



⚠ 注意

- エアコンの吹出口は火災報知器より1.5m以上離して設置する
火災発生時に火災報知器の作動が遅れる、または検出できない場合があります。
- 蒸気が多く発生するような場所、蒸気が発生させる機器
近傍に室内ユニットを設置しない
ユニット内蔵部品が結露し、故障するおそれがあります。



室内ユニットは冷・温風がムラなく循環する場所を選んでください。
次のような場所は避けてください。

- 酸性またはアルカリ性雰囲気のある場所（温泉地帯・化学薬品工場・燃焼炉の排気を吸込む場所・次亜塩素酸ナトリウムを噴霧する場所など）…熱交換器（アルミフィン・銅パイプ）などに腐食を起こすおそれがあります。
- 切削油などの機械油の立込める雰囲気のある場所…熱交換器の腐食・熱交換器目づまりによる霧の発生・フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損・断熱材のはがれなどを起こすおそれがあります。
- 食用油煙が発生する場所（食用油を使用する厨房や焼肉・お好み焼き店など）…フィルター目づまりによる性能低下および結露・プラスチック部品の破損などを起こすおそれがあります。
- 吹き出しの気流を乱す換気口や照明器具などの障害物が近くにある場所（気流の乱れにより、能力低下や機器の停止のおそれがあります。）
- 電源に自家発電装置を使用している場所…電源周波数・電圧が変動し、エアコンが正常に動作しないことがあります。
- 金属粉などの粉塵が発生する場所には据え付けしないでください。金属粉などがエアコン内部に付着・堆積すると自然発熱することがあり、火災の原因になります。
- クレーン車・船舶など移動するもの
- 特殊用途（食品・動植物・精密機器・美術品の保存など）では使用しないこと。（保存物の品質などに損害のおそれがあります。）

- 高周波の発生する機器（インバーター機器・自家発電機・医療機器・通信機器）がある場所（エアコンの誤動作や制御の異常や、それら機器へのノイズによる弊害が生じるおそれがあります。）
 - 据え付けた下に、ぬれては困るものがある場所（湿度80%以上のときやドレン口が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じるおそれがあります。）
 - ワイヤレスタイプの場合、インバータータイプの蛍光灯がある部屋、また直射日光が当たる場所（ワイヤレスリモコンの信号を受け付けないことがあります。）
 - 有機溶剤を使用している場所
 - 液化炭酸冷却など化学プラントには使用できません。
 - ドアまたは窓の近くで高湿度の外気と接するおそれのある場所（結露するおそれがあります。）
 - 特殊なスプレーを頻繁に使用する場所
- 建物の金属部とエアコン金属部との電気絶縁は電気設備技術基準（省令第59条、基準の解釈第167条3項）に従ってください。
- 配管を壁に貫通させるときは、必ず下記の部品を使用してください。
- 幹旋先：東芝コンシューママーケティング（株）
- (1) 部品名：ウォールキャップ
型 名：UWC-60（能力ランク：P56以下）
WC-75N（能力ランク：P71以上）
- (2) 部品名：貫通スリーブ
型 名：NFP-60（能力ランク：P56以下）
NFP-75（能力ランク：P71以上）
- 室内ユニット下面から床まで1.8m以上離してください。

お願い

天井内の湿度が80%を超えと思われる場合には、室内ユニット本体の側面と上面に断熱材を貼り付けてください。（断熱材は、厚さ10mm以上のものを使用してください。）

据付場所の選定 (つづき)

据付スペース

室内ユニットの据付およびサービスに必要なスペースを確保してください。
室内ユニットの天井と天井面との隙間は、15mm 以上確保してください。

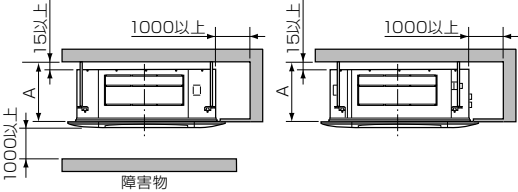
＜据付スペース＞

MMU-UP *** H シリーズ

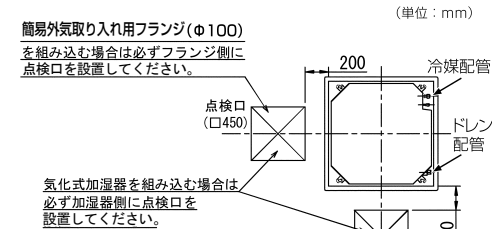
能力ランク	天井ふところ高さ：Amm
P28～P90 形	271 以上
P112～P160 形	334 以上

MMU-UP *** HD シリーズ

能力ランク	天井ふところ高さ：Amm
P80・P90 形	334 以上



＜別売品（加湿器・簡易外気取り入れフランジ）組み込みの場合＞
別売品組込側に点検口を設置してください。



天井高さ

MMU-UP *** H シリーズ

能力ランク	据付可能天井高さ
P28・P36 形	3.0m まで
P45～P90 形	3.8m まで
P112～P160 形	4.6m まで

MMU-UP *** HD シリーズ

能力ランク	据付可能天井高さ
P80・P90 形	3.8m まで

天井高さが下表の標準／4 方向の天井・高さを超える場合は、温風が床面まで届きにくくなるので、高天井設定または吹出方向の変更が必要になります。

また、別売品のフィルターを組み込む場合も高天井設定が必要になります。

高天井設定方法は、本紙 12 ページの応用制御『高天井切換（フィルター設定）』をご覧ください。

ワイヤレスリモコン使用時は、14 ページの『ワイヤレス（集中管理リモコンだけの場合）で高天井・フィルター設定を行う場合』をご覧ください。

据付可能天井高さ一覧表

MMU-UP *** H シリーズ

(単位：m)

能力ランク	P28・P36形			P45～P56形			P71～P90形			P112～P160形			高天井設定
吹出方向	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	4方向	3方向	2方向	設定データ
標準（出荷時）	2.7	2.8	3.0	2.8	3.2	3.5	3.0	3.3	3.6	3.9	4.2	4.5	0000
高天井①	—	—	—	3.2	3.5	3.8	3.3	3.5	3.8	4.2	4.4	4.6	0001
高天井③	—	—	—	3.5	3.8	—	3.6	3.8	—	4.5	4.6	—	0003

MMU-UP *** HD シリーズ

(単位：m)

能力ランク	P80・P90形			高天井設定
吹出方向	4方向	3方向	2方向	設定データ
標準（出荷時）	3.0	3.3	3.6	0000
高天井①	3.3	3.5	3.8	0001
高天井③	3.6	3.8	—	0003

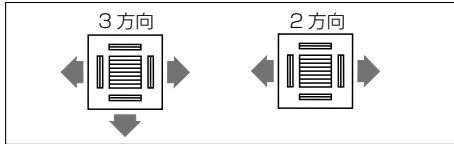
お願い

- 2 方向・3 方向吹出で使用する場合、天井の高さが標準より低いと直接強い風が当たりますので、天井の高さに合った設定に変更してください。
- 4 方向吹出で高天井①、高天井③を使用した場合には、吹出温度低下によりドラフトを感じやすくなります。
- P45 クラス以下の機種で高天井対応する場合には、なるべく 3 方向または 2 方向吹出にしてご使用ください。

据付状況に応じて、リモコンのフィルターサイン（フィルター清掃のお知らせ）が点灯するまでの時間を設定変更できます。
また、据付場所や部屋の構造などでどうしても暖まりにくい場合には、暖房の内部設定温度を上げることができます。
設定方法は、本紙 12 ページの応用制御『フィルターサイン』『暖房シフト』をご覧ください。

吹出方向

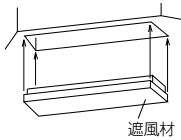
使用する部屋の形や、据付位置に合わせて下図のように吹出方向の数を選ぶことができます。



- 吹出方向を変更する場合は、遮風材キット（別売品）を使用して変更します。

遮風材キット
(形名：TCB-BC1603U)

吹出方向には制限がありますので遮風材キットに付属の取付説明書に従ってください。



リモコン(別売品)の取付

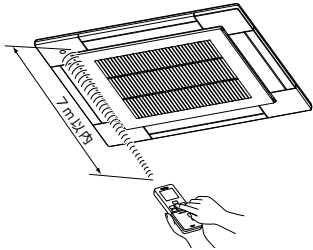
リモコンの取付方法は、リモコンに付属の取付説明書に従ってください。

- 直射日光の当たる所やストーブなどの近くに置いたり設置しないでください。

(ワイヤレスタイプ)

ワイヤレスリモコンの受信距離は約 7m 以内です。リモコンを操作する位置と据付場所を決めてください。

- 誤作動、リモコン受信不良防止のため、蛍光灯、赤外線が発生させる機器（電子黒板など）や直射日光の障害を受けない場所を選定してください。
- リモコン送信部および受信部の設定を切り換えることで、同じ部屋に設置の 2 台の室内ユニットを個々に操作できます。
- テレビやステレオなどの機器から 1m 以上離してください。
(映像の乱れや雑音が入ることがあります。)



1 室内ユニットの据付

⚠ 警告

据付は、重量に十分耐える所に確実に行う
強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。

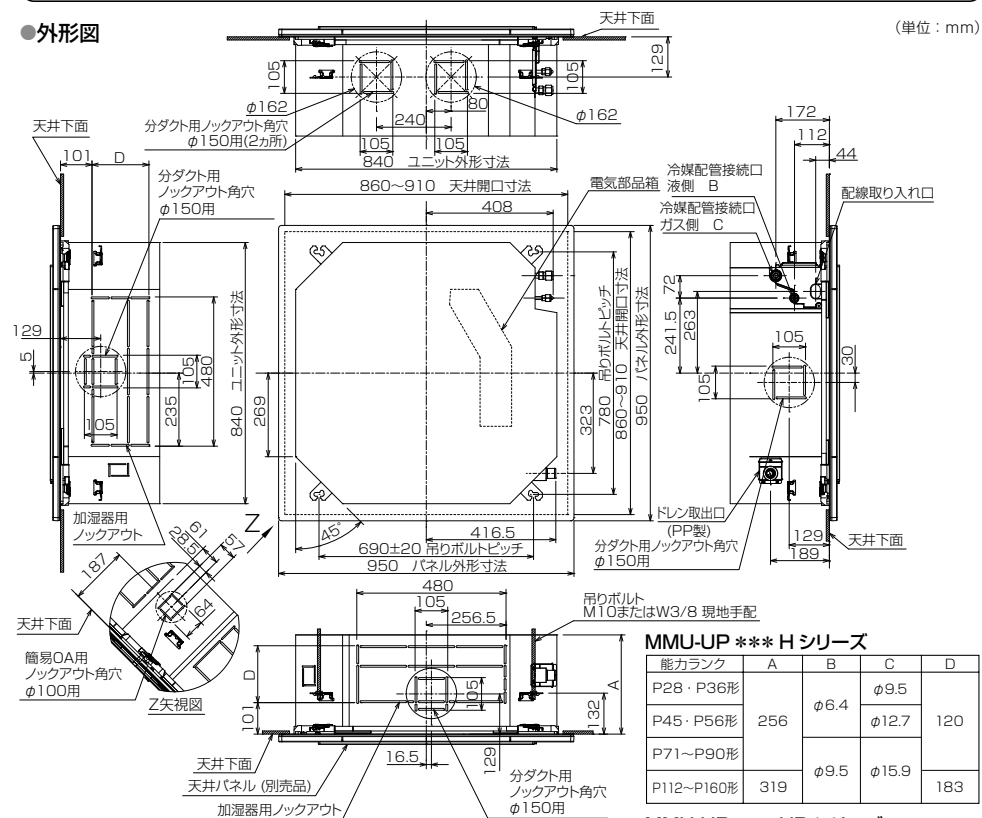
台風などの強風・地震に備え、所定の据付工事を行う
据付工事に不備があると、転倒・落下などによる事故の原因になります。

お願い

室内ユニットの損傷防止およびけが防止のため、次のことは必ず守って取り扱ってください。

- 梱包された室内ユニットの上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- 室内ユニットの搬入は、なるべく梱包したままで搬入してください。
やむをえず、開梱して搬入する場合は、当て布などで傷を付けないようにしてください。
- 室内ユニットを移動させるときは、吊金具（4カ所）を持ち、その他（冷媒配管・ドレン皿・発泡部品・樹脂部品）に力を加えないでください。
- 運搬は2人以上で行い、包装用バンドを持っての荷扱いはしないでください。
- 吊りボルトに防振材を入れる場合は、本体の振動が大きくなることを確認のうえご使用ください。

●外形図



MMU-UP *** H シリーズ

能力ランク	A	B	C	D
P28・P36形			φ9.5	
P45・P56形	256	φ6.4	φ12.7	120
P71~P90形		φ9.5	φ15.9	
P112~P160形	319			183

MMU-UP *** HD シリーズ

能力ランク	A	B	C	D
P80・P90形	319	φ9.5	φ15.9	183

天井開口と吊りボルトの設置

- 室内ユニットは、吊り下げたあとの配管・配線工事を考慮して、据付位置と方向を決定してください。
- 室内ユニット据付位置決定後、天井の開口と吊りボルトの設置を行ってください。
- 天井開口寸法と吊りボルトピッチは、外形図および付属の据付用型紙に記載されています。
- 天井が既設の場合は、室内ユニットを吊り下げる前に配管・配線を接続する位置まで、ドレン配管・冷媒配管・室内外接続線・リモコン配線を引いておいてください。

室内ユニット据付用の吊りボルトとナットは現地手配してください。

吊りボルト	M10またはW3/8	4本
ナット	M10またはW3/8	12本

付属の据付用型紙の使いかた

据付用型紙は梱包キャップの内側にあります。

＜既設天井の場合＞

天井開口穴と吊りボルトの位置出しにご使用ください。

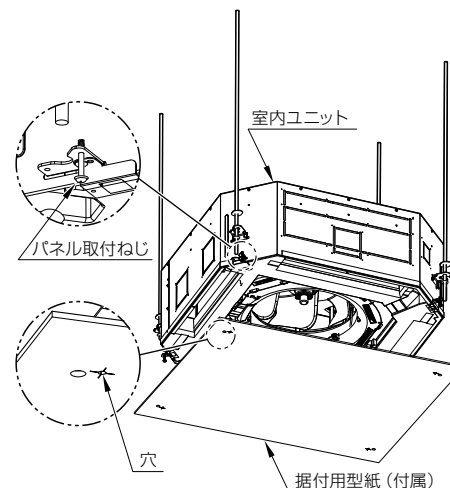
＜新設天井の場合＞

新設天井を張るときは開口穴の位置出しにご使用ください。

- 吊りボルト設置後、室内ユニットを取り付けてください。

- 室内ユニットのパネル取付ねじに据付用型紙の穴4カ所を押込み固定してください。

- 天井を張るとき、据付用型紙の外寸に沿って開口してください。



天井の処理

建築の構造により異なるので、詳しくは建築・内装業者とご相談ください。

天井板の取りはずし後の処理は、天井板の振動を防ぐための天井下地（骨組）の補強と既設天井の水平度を正しく保つことが重要です。

- 天井下地を切断撤去してください。

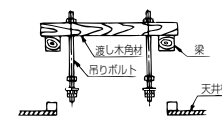
- 天井下地切断面を補強し、天井板の端固定用の天井下地を追加してください。

吊りボルトの取付

吊りボルト（4本、現地手配）はM10またはW3/8を使用します。ピッチは室内ユニット外形図の寸法に従い、既設構造に合わせて次の方法で取り付けてください。

木造の場合

梁の上に角材を渡して吊りボルトを設置します。



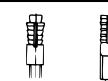
新設のコンクリートスラブの場合

インサート金具・埋込ボルトなどで設置します。



既設のコンクリートスラブの場合

ホールインアンカー・ホールインプラグまたはホールインボルトを使用します。



鉄骨構造の場合

アングルをそのまま利用するか、新規に支持用アングルを設置します。



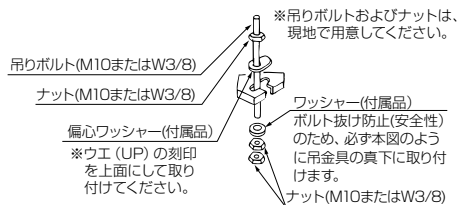
1 室内ユニットの据付 (つづき)

室内ユニットの設置

- 吊りボルトに、ナット (M10 または W3 / 8 : 現地手配) と付属のワッシャー (φ 34) を付けてください。
- 室内ユニットの吊金具の T 溝にワッシャーを上下に挟み、吊り下げます。
- 四辺が水平になっているか水準器で確認してください。(水平度: 5mm 以内)
- 据付用型紙から付属の据付ゲージを切り離してください。
- 据付ゲージを使用して、室内ユニットと天井開口穴の隙間関係① (10 ~ 35mm 四辺共通) および吊り下げ高さ② (12 ± 5 mm : 四隅) を確認し、調整してください。(据付ゲージに使用方向が印刷されています。)

お願い

室内ユニットを据え付ける前に、ファンとペルマウスを固定しているテープを必ず取りはずしてください。テープを取りはずさないで運転すると、ファンモータが故障する場合があります。

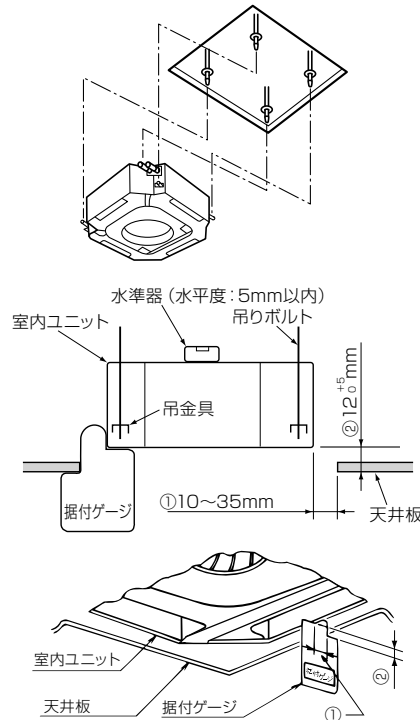


天井パネル (別売品) の取付

天井パネルは配管・配線工事が終了してから取り付けます。天井パネルの取付は、パネルに付属の取付説明書に従ってください。室内ユニットと天井開口部の取付寸法が正しいか確認してから取り付けます。

お願い

天井パネルと天井面、および天井パネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れが生じて、結露・水漏れの原因になります。天井パネルを取り付ける前に、天井パネルのアジャストコーナーキャップ (四隅) をはずしてから室内ユニットに取り付けてください。また、アジャストコーナーキャップを元に戻すときは、ツメが確実にハマっていることを確認してください。※ツメがハマっていない箇所があると水漏れの原因となります。



2 ドレン配管

警告

防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材 (パテなど) で埋める



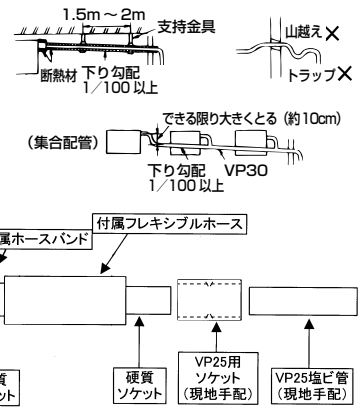
注意

ドレン配管は、据付説明書に従って確実に排水するように施工し、結露が生じないように断熱する。配管工事に不備があると、屋内に水漏れし、家財などをぬらす原因になることがあります。



お願い

- 室内のドレン配管の断熱を確実に行ってください。
- 室内ユニットとの接続部も必ず断熱してください。断熱が不完全になると結露の原因になります。
- ドレン配管は下り勾配 (1 / 100 以上) とし、途中に山越えやトラップを作らないでください。異常音の原因になります。
- ドレン配管の横引きは 20 m 以下にしてください。配管が長い場合は、1.5 ~ 2 m 間隔で支持金具を設け、波打ちを防止してください。
- 集合配管は右図のように施工してください。
- エア抜き管は付けしないでください。ドレン水が吹き出し、水漏れの原因となります。
- ドレン配管との接続部に力を加えないよう注意してください。
- 室内ユニットのドレン配管接続口に直接硬質塩ビ管を接続することはできません。ドレン配管接続口との接続には、必ず付属のフレキシブルホースを取り付けます。
- 室内ユニットのドレン配管接続口 (硬質ソケット) には、接着剤の使用はできません。接着剤を使用するとドレン配管接続口の破損や水漏れの原因になります。必ず付属のホースバンドで固定してください。



配管材料・断熱材およびサイズ

配管工事および断熱処理には下表の材料を現地手配してください。

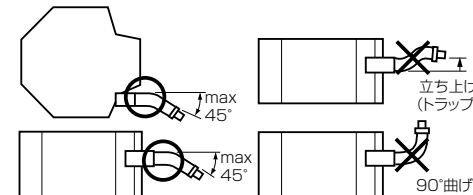
配管材料	硬質塩ビ管ソケット VP25 用
	硬質塩ビ管 VP25 (外径φ 32mm)
断熱材	発泡ポリエチレンフォーム 厚さ 10mm 以上

フレキシブルホースの接続

- 付属のフレキシブルホースの軟質側ソケットを室内ユニットのドレン配管接続口に突き当たるまで挿入します。
- 付属のホースバンドを配管接続口の端に合わせ、しっかり締めてください。

お願い

- 軟質側ソケットは付属のホースバンドで必ず固定し、締め位置を上側にしてください。
- 付属のフレキシブルホースは、折れ・詰まりが起こらないように角度は 45° 以下とし、使用してください。



ドレン配管の接続

- 取り付けた付属のフレキシブルホースの硬質側ソケットに、硬質ソケット (現地手配) を接続します。
- 接続した硬質ソケットにドレン配管 (現地手配) を接続していきます。

お願い

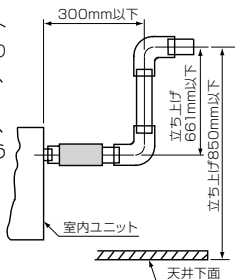
- 硬質塩ビ管の接続には、塩ビ用接着剤を使用し、水漏れのないよう確実に行ってください。
- 接着剤の乾燥硬化 (接着剤の取扱説明書をご確認ください) するまでに時間を要しますので、その間ドレン配管との接続部に力加わらないようにしてください。

2 ドレン配管 (つづき)

ドレンアップ

ドレン配管に下り勾配が確保できないときは、ドレンアップができます。

- ドレンの配管の高さは、天井下面から 850mm 以下にしてください。
- ドレン配管は、室内ユニットのドレン配管接続口根元より 300mm 以下で取り出し、垂直に立ち上げてください。
- 垂直に立ち上げたあとは、すぐに下り勾配になるよう配管してください。



排水の確認

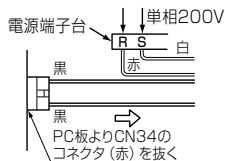
ドレン配管工事の完了後に、排水が行われることと配管接続部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモータ音に異常がないことも確認してください。暖房期に据付の場合も必ず実施してください。

電気配線工事が完了している場合

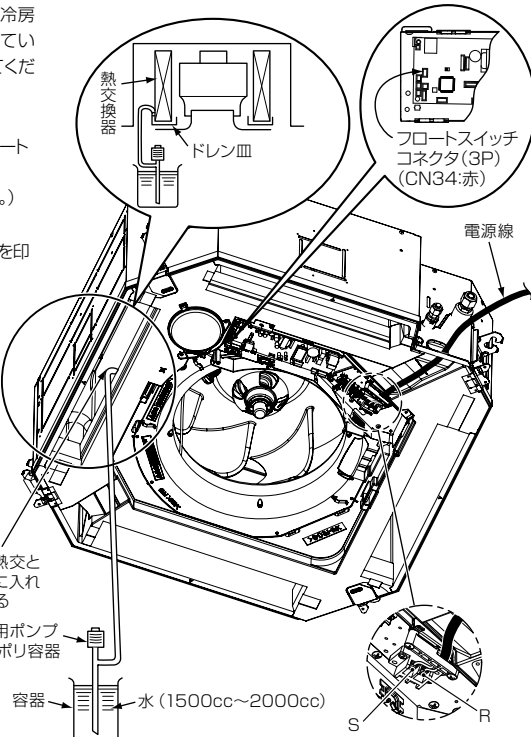
- パネルを取り付ける前に右図の方法で注水してから、冷房運転しながらドレン配管接続口（透明）から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。

電気配線工事が完了していない場合

- 電気部品箱の PC 板のコネクタ (CN34：赤) からフロートスイッチコネクタ (3P：赤) を抜いてください。
(このとき電源が切れていることを必ず確認してください。)
- 電源端子台の R、S に単相 200V を接続します。
(端子台の Uv(U₁)、Uv(U₂)、A、B に絶対 200V を印加しないでください。PC 板の故障の原因となります。)
- 右図の方法で注水してください。
(注水量 1500cc ~ 2000cc)
- 電源を入れると、自動的にドレンポンプが運転しますので、ドレン配管接続口（透明）から排水されているか確認し、ドレン配管からの水漏れがないか確認してください。
- 排水・水漏れ確認後、電源を切りフロートスイッチコネクタを PC 板の元の箇所 (CN34) に付け、電気部品箱を元に戻します。

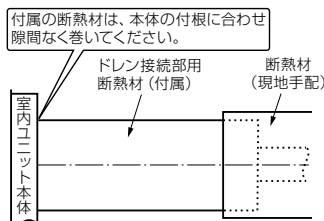


ホース先端を熱交とドレン皿の間に入れ下向きに曲げる
石油ストーブ用ポンプ
または注水用ポリ容器



断熱処理

- 排水確認後、付属のドレン接続部用断熱材を室内ユニットのドレン配管接続口付根よりフレキシブルホースを被うように隙間なく巻いてください。
- 付属のドレン接続部用断熱材に重ねるようにして、ドレン配管に断熱材（現地手配）を隙間なく巻いてください。



※断熱材のスリット部および合わせ目は上側を向くようにしてください。

注意

水を注入するときはゆっくりと注入する
勢いよく注入すると、室内ユニットの内部に
散布され機器の故障の原因となります。



3 冷媒配管

警告

- 据付工事中に冷媒ガスが漏れた場合は換気を行う
漏れた冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 据付工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する
冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因となります。
- 防火区画を配管が貫通する場合は、貫通部の隙間を不燃材（パテなど）で埋める



お願い

- 冷媒配管が長い場合は、2.5 ~ 3m 間隔で支持金具を設け固定してください。配管を固定しないと異常音が発生する場合があります。
- フレアナットは必ず室内ユニット付属のもの、または R410A 用のものを使用してください。

配管許容長さおよび許容落差

室外機により異なります。詳細は室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

配管材料およびサイズ

能力 ランク		配管サイズ (mm)	配管材料
P28 形	ガス側	φ 9.5 (O材、最小肉厚 0.8)	空調用 リン脱酸銅 継目無管 (C1220T)
P36 形	液側	φ 6.4 (O材、最小肉厚 0.8)	
P45 形	ガス側	φ 12.7 (O材、最小肉厚 0.8)	
P56 形	液側	φ 6.4 (O材、最小肉厚 0.8)	
P71 形	ガス側	φ 15.9 (O材、最小肉厚 1.0)	
P160 形	液側	φ 9.5 (O材、最小肉厚 0.8)	

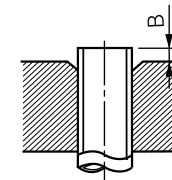
冷媒配管の接続

●フレア加工

- ①パイプカッターで配管を切断します。
バリは必ず取ってください。(ガス漏れの原因となります。)
- ②フレアナットを配管に挿入後、フレア加工をします。
フレアナットは室内ユニット付属のもの、または R410A 用のものをご使用ください。
R410A 用のフレア加工寸法は、R22 用とは異なります。R410A 用のフレアツールをおすすめしますが、R22 用のツールでも下表の通り銅管の出し代を調整すれば、使用できます。

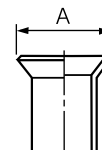
●フレア加工時の銅管出し代：B（単位：mm）

配管外径	リジッド（クラッチ式）の場合		インベリアル （ウイングナット）の場合
	R410A用ツール使用時	R22用ツール使用時	
6.4	0~0.5	1.0~1.5	1.5~2.0
9.5			2.0~2.5
12.7			
15.9			



●フレア部加工寸法：A（単位：mm）

配管外径	A ±0.4
6.4	9.1
9.5	13.2
12.7	16.6
15.9	19.7

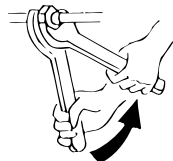


※ R22 用のフレアツールを使って R410A 用のフレア加工をする場合は、R22 のときより約 0.5mm 多めにせせば規定のフレア寸法に加工できます。出し代の寸法調整は銅管ゲージを使用すると便利です。

フレア加工後、加工部に傷・切粉付着・変形・段差・扁平などがいないことを確認してください。

3 冷媒配管 (つづき)

- 封入ガスは大気圧しか封入されていないので、フレアナットをはずしても「プシュー」という音がしませんが異常ではありません。
- 室内ユニットの配管接続は必ずダブルスパナで行ってください。



ダブルスパナ作業

- フレアナット締付トルクは下表に従ってください。

接続配管外径(mm)	締付トルク (N・m)
6.4	14～18
9.5	34～42
12.7	49～61
15.9	68～82

フレア面への冷凍機油の塗布は行わないでください。

- フレア配管接続部の締付トルク
R410AはR22に比べ、圧力が約1.6倍と高くなります。従って、室内・室外の各ユニットを接続するフレア配管接続部は、トルクレンチを使用して規定の締付トルクで確実に締め付けてください。接続に不備があるとガスリークだけでなく、冷凍サイクル故障の原因にもなります。

お願い

トルクをかけ過ぎると、据付条件によってはナットが割れる場合があります。

気密試験・エアパージなど

気密試験・エアパージ・冷媒追加・ガスリークチェックは室外機に付属の据付説明書をご覧ください。

お願い

気密試験・真空引きが完了するまで室内ユニットに通電しないでください。
(通電すると内蔵している電子制御弁が全閉になり、真空引き完了までの時間が長くなります。)

バルブを全開に

所定の室外機のバルブを全開にします。

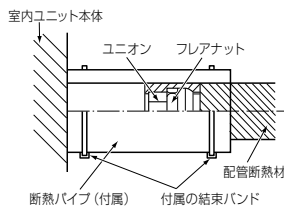
断熱処理

配管の断熱は液側とガス側の両方を別々に行います。

- ガス側配管の断熱材は必ず耐熱温度 120℃以上のものを使用してください。
- 室内ユニットの配管接続部の断熱は、付属の断熱材を用いて隙間なく確実に断熱処理してください。

お願い

断熱処理は室内ユニットの配管接続部付根まで露出がないよう確実に行ってください。(配管が露出していると、水漏れの原因となります。)
断熱材を巻くときはスリット部が上側を向くように処理してください。



4 電気配線

警告

- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定する
接続や固定が不完全な場合は、火災などの原因になります。
- アースを必ず取り付け
法律により D 種接地工事が必要です。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。
アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続しないでください。
- 電気工事(アース工事を含む)は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」・「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する
電源回路容量不足や施工不備があると感電・火災の原因になります。
- 漏電遮断器(過電流保護機能付き)が正しく取り付けられているか確認する
漏電遮断器が正しく取り付けられていないと感電の原因になることがあります。
確認方法については、据付を行った販売店、または据付専門業者へお問い合わせください。



お願い

- 電源配線は所轄の電力会社の規定および電気設備基準に従い行ってください。
- 室外機の電源は各室外機の据付説明書に従って配線してください。
- 通信線用端子台(Uv(U₁), Uv(U₂), A, B)には 200V 電源を絶対に接続しないでください。(故障します。)
- 電気配線は配管の高温部に接触しないようにしてください。被覆が溶け事故の原因となる場合があります。
- 配線は端子台に接続したあと、トラップを取り、ケーブルクランプで固定してください。
- 室内外渡り線系統と冷媒配管系統は同一系統に収めてください。
- 冷媒配管の真空引きが終るまで、室内ユニットに通電しないでください。

通信方式とモデル形名

TCC-LINK.u モデル (U シリーズ) は TCC-LINK モデル (U シリーズ以外) と組み合わせて使うことができます。
モデルと通信方式の詳細は下表を参照してください。

通信方式	TCC-LINK.u (U シリーズ)	TCC-LINK (U シリーズ以外)
室外機	MMY-MUP*** ↑ U シリーズモデル	左記以外 (MMY-MAP***, MCY-MAP*** など)
室内ユニット	MM*-UP*** ↑ U シリーズモデル	左記以外 (MM*-AP*** など)
ワイヤードリモコン	RBC-AMSU** ↑ U シリーズモデル	左記以外
ワイヤレスリモコン受信部	RBC-AXRU** ↑ U シリーズモデル TCB-AXRU** ↑ U シリーズモデル	左記以外

U シリーズの室外機 : スーパーマルチ u シリーズ (MMY-MUP ***)
U シリーズ以外の室外機 : スーパーモジュールマルチ i シリーズ (MMY-MAP ***) など

電源仕様

配線およびリモコン配線は現地手配となります。

電源仕様は次の表に従ってください。容量が小さいと過熱・焼損などの発生原因となり危険です。
室外機の電源容量および電源配線の仕様は室外機に付属の据付説明書に従ってください。
接続室外機のシリーズによって通信線の線径・許容長さが異なります。

4 電気配線 (つづき)

接続室外機がスーパーマルチ U シリーズ (U シリーズ) のとき

接続室内ユニットやリモコンに U シリーズと U シリーズ以外が混在する場合も、下表の配線仕様に従ってください。

項目 能力 ランク	室内ユニット電源 (※1)						通 信 線						アイ ス 線
	電源		手元開閉器		電源 配 線		室内外渡り線 (Uvライン) および室外間渡り線 (Ucライン) (※2)		集中管理系配線 (Uhライン) (※3)		リモコン配線 (※4)		
	容量	ヒューズ	20m以下	50m以下	本数	線 径	本数	線 径	本数	線 径			
P28形 P160形	単相 200V 50/60Hz	15A 15A	2mm ²	3.5mm ²	2	(1000mまで) 0.75~1.25mm ²	2	(1000mまで) 0.75~1.5mm ² (2000mまで) 2.0mm ²	2	0.5 2.0mm ²	2.0mm ² (φ1.6mm)		

(※1) ●室内ユニットの電源は室外機とは別に専用電源を設けてください。
●同一室外機に接続した室内ユニットの電源および漏電遮断器・手元開閉器は共通にしてください。

(※2) ●室内外渡り線・室外間渡り線は2芯・無極性です。
●通信線の長さは、室内外渡り線と室外間渡り線の合計値です。
(合計値は同一冷媒系統内の数値であり、個々の系統で独立しています。)
●右表のいずれかの2芯線を使用してください。

(※3) ●集中管理系配線は2芯・無極性です。
●右表のいずれかの2芯線を使用してください。

(※4) ●リモコン配線・グループ制御用リモコン配線は2芯・無極性です。

室内外渡り線・室外間渡り線・集中管理系配線の線種一覧

シールド線	ノンシールド線
MVVS(JCS 4271)	VCTF(JIS C 3306)
EM-MEES(JCS 4518)	EM-ECTF(JCS 4501)
CVVS(JCS 4258)	VCT(JIS C 3312)
CEES(JCS 4258)	
EM-CEES(JCS 4258)	
EM-CEE/F-S(JCS 4258)	

※〇~〇mm² で記載されている配線サイズはその範囲で使用してください。それ以外は最小サイズです。

お願い

室内外渡り線 (Uv ライン) ・ 室外間渡り線 (Uc ライン) と集中管理系配線 (Uh ライン) については、それぞれのラインを同一の線種および線径で配線してください。
異なる線種や線径を混ぜて使用すると通信エラーを引き起こす原因になります。

接続室外機がスーパーマルチ U シリーズ (U シリーズ) 以外の場合

項目 能力 ランク	室内ユニット電源 (※1)					通 信 線						アイ ス 線
	電源	手元開閉器		電 源 配 線		室外間渡り線 本数	線 径	室内外渡り線および 集中管理系配線 (※2) 本数	線 径	リモコン配線 (※3) 本数	線 径	
		容量	ヒューズ	20m以下	50m以下							
P28形 P160形	単相 200V 50/60Hz	15A	15A	2mm ²	3.5mm ²	2	(100mまで) 1.25~2.0mm ²	2	(1000mまで) 1.25mm ² (2000mまで) 2.0mm ²	2	0.5 2.0mm ²	2.0mm ² (φ1.6mm)

(※1)●室内ユニットの電源は室外機とは別に専用電源を設けてください。
●同一室外機に接続した室内ユニットの電源および漏電遮断器・手元開閉器は共通にしてください。

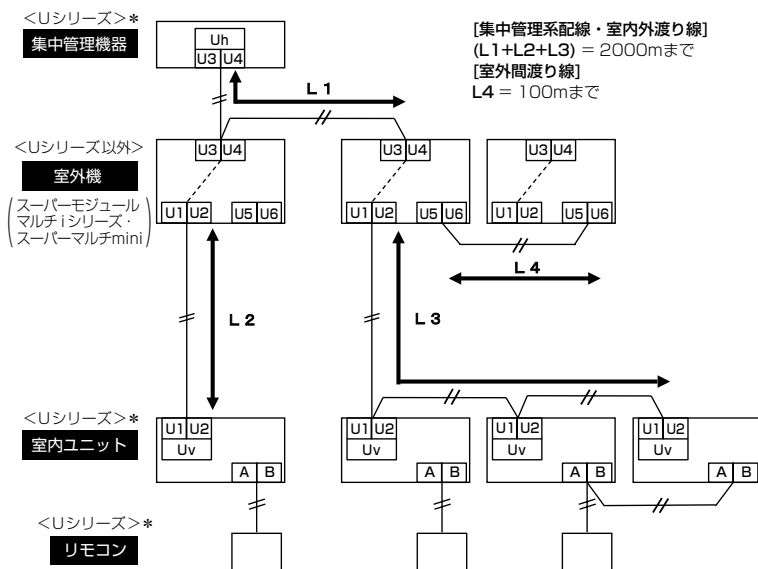
(※2)●室内外渡り線・集中管理系配線は2芯・無極性です。
●通信線の長さは、すべての室内外渡り線と集中管理系配線の合計値です。
●ノイズ障害防止のため、2芯のシールド線(MVVS・EM-MEES)を使用してください。

(※3)●リモコン配線・グループ制御用リモコン配線は2芯・無極性です。

※〇~〇mm² で記載されている配線サイズはその範囲で使用してください。それ以外は最小サイズです。

お願い

室内外渡り線・集中管理系配線と室外間渡り線については、それぞれのラインを同一の線種および線径で配線してください。
異なる線種や線径を混ぜて使用すると通信エラーを引き起こす原因になります。



* 室内ユニットやリモコン、集中管理機器が U シリーズ以外でも、上記システム図の配線仕様は同じです。

* 室内ユニットやリモコン、集中管理機器が U シリーズ以外でも、上記システム図の配線仕様は同じです。

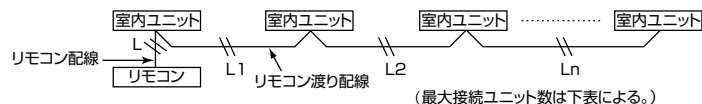
4 電気配線 (つづき)

■リモコン配線とリモコン渡り配線

※ご使用のリモコンによって異なります。

RBC-AMSU51			
			
線種	CVV, VCTF, VCT, MVVS, CPEVS: 0.5mm ² ~2.0mm ² ×2		
リモコン配線とリモコン渡り配線の総配線長 (L+L1+L2+...Ln)	1リモコン	2リモコン	ワイヤレスとの2リモコン
	500mまで	300mまで	400mまで
室内ユニット間リモコン渡り配線の最大配線長 (L1, L2, ... Ln)	200mまで		

- その他のリモコンについては、リモコン付属の据付説明書に従ってください。
- TCC-LINK.u モデル (U シリーズ) に TCC-LINK モデル (U シリーズ以外) が組み合わされた場合、配線仕様や室内ユニットの最大接続台数が変化します。機器の据付時や修理・メンテナンス時は付属の説明書に従ってください。モデルとシリーズの詳細は「通信方式とモデル形名」をご覧ください。
- アドレスの再設定などは室外機の据付説明書をご覧ください。



ユニットの通信方式の組み合わせと最大接続ユニット数

室外機	ユニットタイプ							
	U シリーズ	U シリーズ	U シリーズ	U シリーズ	*	*	*	*
室内ユニット	U シリーズ	U シリーズ	*	*	U シリーズ	U シリーズ	*	*
リモコン	U シリーズ	*	U シリーズ	*	U シリーズ	*	U シリーズ	*
通信方式	TCC-LINK.u				TCC-LINK			
最大接続ユニット数	16				8			

* : U シリーズ以外

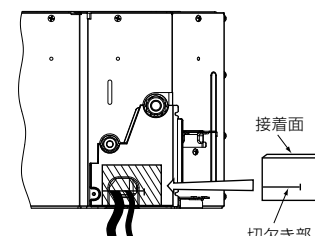
配線接続

お願い

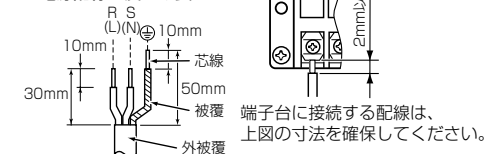
- 配線は、室内ユニットの配線接続口を必ず通してください。
- 電気部品箱をサービスなどで吊り下げる場合がありますので、配線には余裕 (約 100mm) を持たせてください。

- 電気部品箱のカバー取付ねじ (2カ所) をはずし、カバーを内側にスライドさせて引掛け部をはずします。
(電気部品箱カバーは、ヒンジに引掛けたままとします。)
- 電源配線は、外被覆が電気部品箱に収まるように皮ムキを行ってください。
- 電気部品箱の端子台に電源配線と室内外渡り線とリモコン配線を接続します。
- 端子台のねじはしっかりと締め、電気部品箱に付属のコードクランプで配線を固定してください。
(端子台の接続部にテンションを掛けないようにしてください。)
- 付属の配線接続口シール用断熱材で、配線接続口をシールしてください。
(シールしないと結露の原因となります。)
- 配線を挟まないようにし電気部品箱のカバーを取り付けます。
(天井パネルの配線後にカバーを取り付けてください。)

<配線接続口の断熱>



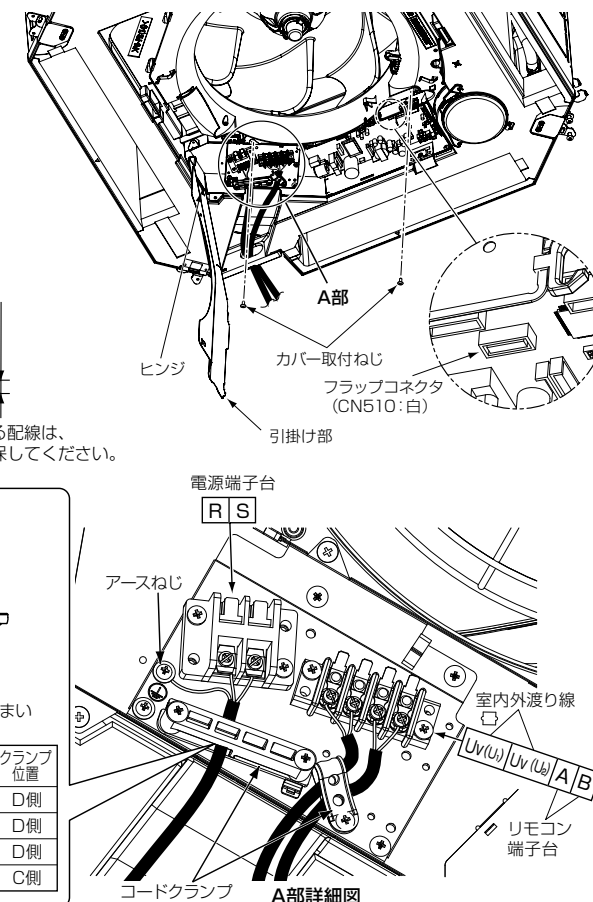
<電源配線の皮ムキ長さ>



D側 (高さ8.5mm)
C側 (高さ4mm)

配線は太さ・種類により下記表を参考にクランプしてください。
※クランプの取付は左右逆に取り付けてもかまいません。

No	線の種類	仕様	クランプ位置
1	キャブタイヤケーブル	3.5mm ² (3芯)	D側
2	キャブタイヤケーブル	3.5mm ² (2芯)	D側
3	キャブタイヤケーブル	2.0mm ² (3芯)	D側
4	キャブタイヤケーブル	2.0mm ² (2芯)	C側

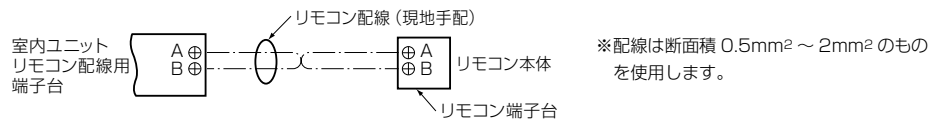


4 電気配線 (つづき)

リモコンの配線

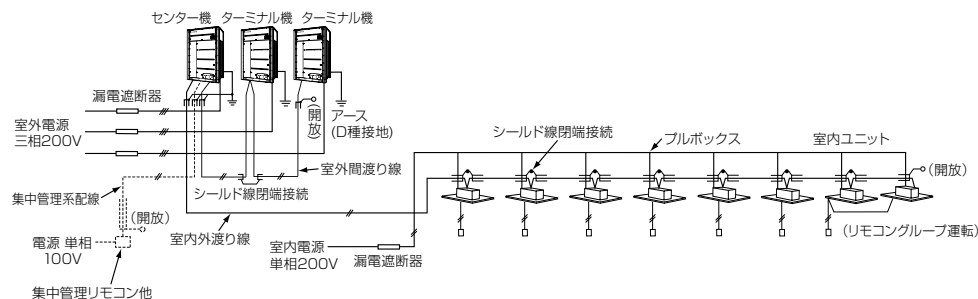
取付時には、リモコンの据設説明書もご覧ください。

●配線図



室内ユニットと室外機の配線

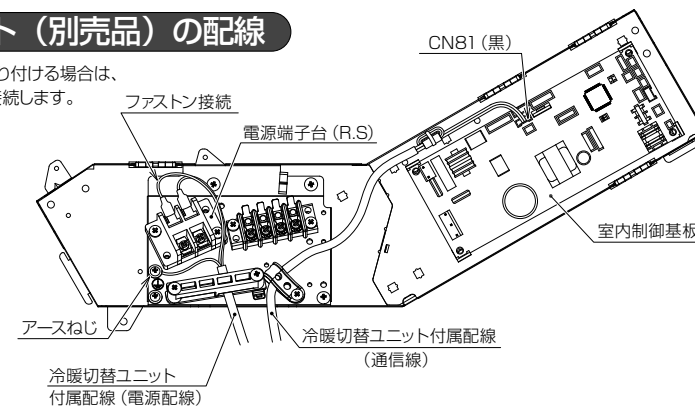
(シールド線を使用する場合)



集中管理系配線と室内外渡り線のシステムアースの取りかたは、シールド線を閉端接続継ぎし、最終端は開放処置 (絶縁処理) してください。また、接地 (アース) は室外機側で1点接地としてください。

冷暖切替ユニット (別売品) の配線

冷暖切替ユニット (別売品) を取り付ける場合は、右図に従い電源配線と通信線を接続します。



アドレス設定

アドレス設定は、室外機に付属している据付説明書をご覧ください。

天井パネルの配線

天井パネルの取付説明書に従い、天井パネルからでているコネクタ (20P:白) を電気部品箱の PC 板のコネクタ (CN510:白) に接続します。(前頁参照)

5 応用制御

12

お願い

はじめてお使いのときは、電源が入ったあとリモコンが操作を受け付けるまで時間がかかりますが、故障ではありません。

- 自動アドレスについて（自動アドレス設定は、室外インターフェース基板上の操作で行います。）
自動アドレス中はリモコン操作できません。自動アドレスは最大 10 分（通常 5 分程度）時間がかかります。
- 自動アドレス完了後電源投入時
電源投入してから室外機が運転するまで最大 10 分（通常 3 分程度）時間がかかります。

設定変更は、省エネ neo リモコンを使用してください。

- *ワイヤレスリモコン・簡易リモコン・リモコンレスシステム（集中管理リモコンだけの場合）での設定変更はできません。

室内ユニット停止中に設定を行います。（エアコンは必ず運転を停止させてください。）

項目コード（DN）で直接設定する場合は、「8. 室内ユニット設定確認」で項目コードとデータをご確認ください。

手順	操 作 内 容
1	『メニュー』ボタンを押してメニューを表示したあと、『メニュー』と『V』ボタンを同時に 4 秒以上長押しして、現地設定メニュー画面を表示します。
2	現地設定メニュー画面で『^』『v』を押して 9. 簡単機能設定 を選んで 設定 『F2』を押します。 ●グループ接続を行っている場合は、選択している室内ユニットのファンとフラップが動作します。 ● ←● 『F1』 ●→ 『F2』で●を移動させて設定を行います。選択されている方に●が表示されます。 ● 温度- 『F1』 温度+ 『F2』で設定を行います。

簡単機能設定 (1/2)	
1. 高天井切換	●0 1 3 6
2. フィルタサイン	●0 1 2 3 4 5
3. フィルタ汚れ	●標準 大
4. オートグリル	有効 ●無効
5. 加湿器	●0 1 2 3
^ v 項目選択 xメニュー 確定 とりけし 戻る	
←●●→	

高天井切換(フィルター設定)

高天井据付・高性能フィルター組込時などの風量切換の設定を行います。

設定	0	1	3	6
高天井	--	高天井①	高天井③	--
フィルター	標準フィルター (出荷時)	オイルガードフィルター 超ロングライフフィルター 光再生脱臭フィルター	高性能フィルター (65%) 高性能フィルター (90%)	デオドラントフィルター

高天井設定は、4 ページ『据付可能天井高さ一覧表』より選択してください。

フィルターサイン

据付状況に応じてフィルターサインが点灯するまでの時間を変更することができます。

設定	0	1	2	3	4
フィルターサイン 点灯時間	なし	150H	2500H (出荷時)	5000H	10000H

換気単独

換気扇を単独で運転するときに " 有効 " に設定します。（出荷時の設定は " 無効 " です。）

暖房シフト

暖房効果をよりよくするために暖房の内部設定温度を上げることができます。

- **温度-** と **温度+** でシフトする温度を設定できます。
（出荷時の設定は「+2k」ですが「+0k（シフトなし）」から「+6k」まで設定できます。）
- シフト温度を設定し確定するには『メニュー』を押します。
変更が確定されて現地設定画面に戻ります。
（『とりけし』を押したときは、変更は行われず、変更前の状態で現地設定メニュー画面に戻ります。）

簡単機能設定 (2/2)	
6. 停電復帰	有効 ●無効
7. 換気単独	有効 ●無効
8. 暖房シフト	+ 2k
9. 風よけフラップ	有効 ●無効
10. 人感センサー	有効 ●無効
^ v 項目選択 xメニュー 確定 とりけし 戻る	
温度- 温度+	

風よけフラップ

冷房時のフラップ位置を天井汚れ軽減位置から冷気落ち抑制位置へ変更するときには " 有効 " に設定します。

風よけフラップ	内 容
有効	風よけフラップポジション（冷気落ち抑制風向）
無効	スマジシング軽減ポジション（天井汚れ軽減風向）（出荷時）

温度センサ切換

通常は室内ユニット本体の温度センサが室温を感知しますが、リモコン周辺の温度を感知させるときに設定します。
（出荷時の設定は " 本体 " です。）



手順	操 作 内 容
1	『メニュー』ボタンを押してメニューを表示したあと、『メニュー』と『v』ボタンを同時に 4 秒以上長押しして、現地設定メニュー画面を表示します。
2	現地設定メニュー画面で『^』『v』を押して 6. 温度表示設定 を選んで 設定 『F2』を押します。 ●グループ接続を行っている場合は、親機の室内ユニットのファンとフラップが動作します。 ●『^』『v』で項目を選択します。白黒反転表示項目の設定ができます。 ● ←● 『F1』 ●→ 『F2』で●を移動させて設定を行います。選択されている方に●が表示されます。
3	3. 温度センサ で室温センサを本体 / リモコンから選択します。 ● " 本体 " を選択すると、室内ユニット本体の室温センサの温度で制御が行われます。 " リモコン " を選択すると、リモコンについている温度センサで制御が行われます。
4	各項目の設定終了後に『メニュー』を押すと変更が確定されます。 " 設定中 " の画面がしばらく表示されたあと、現地設定メニュー画面に戻ります。

温度表示設定	
1. 温度単位	●℃表示 / °F 表示
2. 温度幅	●1℃ / 0.5℃
3. 温度センサ	●本体 / リモコン
^ v 項目選択 xメニュー 確定 とりけし 戻る	
←●●→	

温度センサでリモコンを選択すると、詳細表示画面に「」が表示されます。ただし、子リモコンに設定されている場合は表示されません。

5 応用制御 (つづき)

スイングモード設定

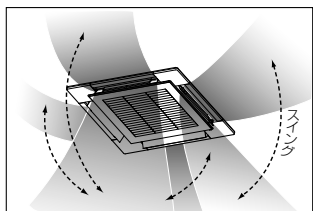
- 1 メニュー画面で「3. フラップ動作設定」を選んで **設定** 『F2』を押す
- 2 『へ』『✓』を押して **1. スイングモード設定**を選んで **設定** 『F2』を押す
- 3 スイングモード設定画面で
 『F1』
 『F2』
 を押してモードを選ぶ
- 4 『メニュー』を押す………
 - 設定中の画面になります。
 - グループ接続を行っている場合はユニット選択画面が表示され、『とりけし』を押すと設定中の画面になります。



『とりけし』を押すと、変更は行われず、変更前の状態でフラップ動作設定画面に戻ります。

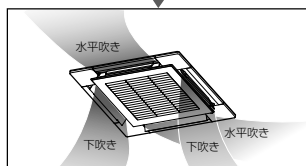
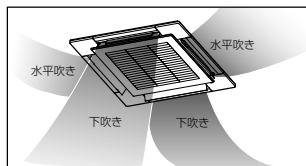
◎標準スイングとは

4 枚のフラップが同じ角度で同時にスイングします。



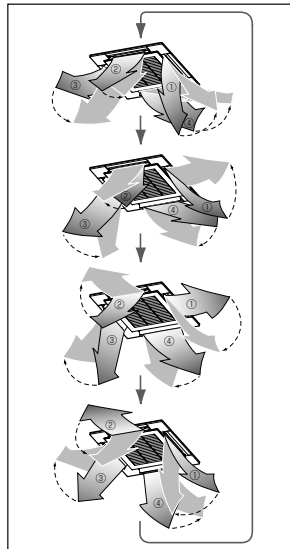
◎デュアルスイングとは (暖房におすすめ)

- 隣り合うフラップが水平吹き・下吹きを交互に繰り返し、暖房時の温度ムラを解消します。
- 下吹きは床面まで温風が広がり、水平吹きは空気をかくはんして温度ムラを抑制します。



◎サイクルスイングとは (冷房におすすめ)

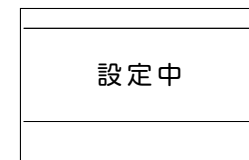
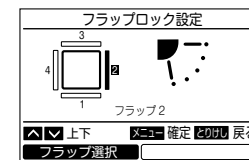
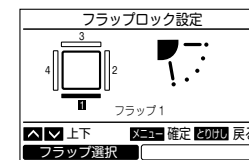
- 4 つのフラップが波打つように、時間差でスイングします。




フラップロック設定

- 1 メニュー画面で「3. フラップ動作設定」を選んで **設定** 『F2』を押す
- 2 『へ』『✓』を押して **2. フラップロック設定**を選んで **設定** 『F2』を押す
- 3 **フラップ選択** 『F1』を押してフラップを選ぶ………
 - 『F1』を押すたびに表示が変わります。
- 4 『へ』『✓』を押してフラップ角度 (風向き) を選ぶ………
 - 『へ』を押すとフラップが上がり、『✓』を押すとフラップが下がります。
- 5 『メニュー』を押す………
 - 設定中の画面になります。
 - グループ接続を行っている場合はユニット選択画面が表示され、『とりけし』を押すと設定中の画面になります。

設定前

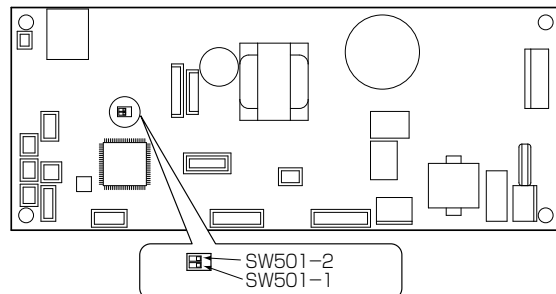


- 『とりけし』を押すと、変更は行われず、変更前の状態でフラップ動作設定画面に戻ります。
- フラップロックが設定されているときには「」が表示されます。
- フラップロックを解除するときは、各フラップのフラップ角度を『へ』『✓』を押して「フラップロックなし」に設定します。
- 冷房時に④⑤の位置でフラップロック設定をすると、結露するおそれがあります。

5 応用制御 (つづき)

ワイヤレス(集中管理リモコンだけの場合)で高天井・フィルター設定を行う場合

高天井および別売フィルターの設定は、下表に示すように室内マイコン基板上のスイッチによる切替方法があります。
*ただし、一度切り換えますと、「1」、「3」、「6」の設定は自由にできますが、「0」に戻すには、スイッチを標準(出荷時)位置にして、別売ワイヤードリモコンから設定データ「0」へのデータ書換作業が必要となりますのでご注意ください。
*マイコン基板上のスイッチを操作するときは、必ず電源を OFF にしてから作業してください。



SW501-1	OFF	ON	OFF	ON
SW501-2	OFF	OFF	ON	ON
設定データ	0 (出荷時)	1	3	6

出荷時の設定に戻すには
SW501-1、SW501-2とも OFF にしたあと、別売のワイヤードリモコンを接続し、12ページの「高天井切換(フィルター設定)」で、設定データを「0」にすることにより、出荷時の設定に戻ります。

グループ制御

- リモコン 1 個で最大 8 または 16 台までグループ制御できます(※接続室外機などによる)。
- 個々の系統(同一冷媒系統)システムの配線手順および配線は、「4. 電気配線」に従って行ってください。
 - 系統間の配線は次の手順で行います。
 - リモコンを接続した室内ユニットのリモコン端子台(A・B)から他の室内ユニットのリモコン端子台(A・B)に、リモコン渡り配線をそれぞれに渡らせて接続します。(極性はありません。)
 - アドレス設定については、室外機に付属している据付説明書に従い行ってください。

別売部品を取り付ける場合

別売部品を取り付けるときに、ワイヤードリモコンによるデータ設定が必要な場合があります。
必ず別売部品の取付説明書に従って、設定を行ってください。

6 試運転

試運転の前に

- 電源を入れる前に、次のことを行ってください。
 - (1) 電源端子台とアース間を 500V メガーで計って 1MΩ 以上あることを確認します。
1MΩ 未満のときは運転しないでください。
 - (2) 室外機のバルブが全開しているか確認してください。
- 起動時の圧縮機保護のために、電源を入れ 12 時間以上通電してください。
- 電磁接触器を押して強制的に試運転することは絶対にやめてください。(保護装置が作動しないため大変危険です。)
- 運転の前に必ずアドレス設定を行う必要があります。アドレス設定は室外機に付属している据付説明書に従ってください。

お知らせ

停止している室内ユニットでも他の室内ユニットが運転中の場合は、機械保護のため吹出フラップを開き、ファンを数分間回転する場合があります。

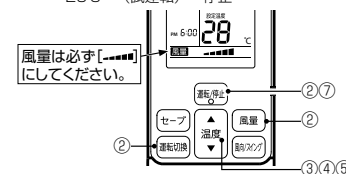
試運転の方法

- 室内ユニット単独で送風運転を行う場合は、いったん電源を切り、基板上にある CN072 を短絡して電源を再投入し、運転モードを送風にしてから運転してください。なお、この方法を用いて試運転した場合は必ず CN072 の短絡を解除することを忘れないようにお願いします。
- リモコンを使用して、通常操作で運転確認を行ってください。運転の手順は、付属の取扱説明書に従ってください。室温がサーモ OFF するような条件では、下の手順で強制試運転ができます。強制試運転は、連続運転を防止するため、運転時間が 60 分を経過すると試運転を解除し、通常運転に戻ります。

(注) 強制試運転は、機器に無理が掛かりますので、試運転以外では使用しないでください。

ワイヤードリモコンの場合		ワイヤレスリモコンの場合	
手順	操 作 内 容	手順	操 作 内 容
1	『メニュー』ボタンを押してメニューを表示したあと、『メニュー』と『V』ボタンを同時に 4 秒以上長押しして、現地設定メニュー画面を表示します。	1	エアコンの電源を投入してください。 据付後初回電源投入時は 5 分間、2 回目以降電源投入時は 1 分間は運転操作を受け付けません。所定時間経過後に試運転を実施してください。
2	現地設定メニュー画面で『^』『v』を押して 1. 試運転 を選んで 設定 [F2] を押します。 ● はい [F1] を押すと、試運転モードが設定され、現地設定メニュー画面に戻ります。 [とりけし] を 2 回押すと右の画面②の状態になります。	2	リモコンの『運転/停止』ボタンを押し、『運転切換』ボタンで運転モードを[冷房]か[暖房]に、『風量』ボタンで風量を[.....]にしてください。
3	● 運転/停止 で運転を開始すると試運転モードでは右の画面①の表示になります。(停止中は画面②) ● “冷房”または“暖房”モードで試運転を行ってください。 ● 試運転モード中は温度設定ができません。 ● 点検コード表示は通常通り行います。	3	冷房試運転の場合 『温度』ボタンで [18℃] にしてください。 暖房試運転の場合 『温度』ボタンで [29℃] にしてください。
4	試運転を確認したら、現地設定メニュー画面で『^』『v』を押して 1. 試運転 を選んで 設定 [F2] を押すと画面③が表示されます。 ● はい [F1] を押すと試運転モードは終了し、通常運転を行います。	4	“ビッ”という受信音確認後直ちに、『温度』ボタンを押して [19℃] にしてください。 “ビッ”という受信音確認後直ちに、『温度』ボタンを押して [28℃] にしてください。
		5	“ビッ”という受信音確認後直ちに、『温度』ボタンを押して [18℃] にしてください。 “ビッ”という受信音確認後直ちに、『温度』ボタンを押して [29℃] にしてください。
		6	さらに手順④→⑤→④→⑤を実施してください。 約 10 秒程度でワイヤレス受信部の表示ランプ『運転』(緑)・『タイマー』(緑)・『準備中』(橙)がすべて点滅し、運転します。もしランプが点滅しない場合には②以降の操作をやり直してください。
		7	試運転を確認したら、『運転/停止』ボタンを押して運転を停止してください。

〈ワイヤレスリモコンからの試運転操作の概要〉
冷房試運転: 運転→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→19℃→18℃→(試運転)→停止
暖房試運転: 運転→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→28℃→29℃→(試運転)→停止



7 故障診断 (つづき)

16

点検コード			ワイヤレスリモコン				点検コード名	判定機器
ワイヤード リモコン 表示	室外 7 セグメント表示		受信部ブロック表示					
		補助コード	運転	タイマー	準備中	点滅		
F07	F07	—	☀	☀	○	交互	TL センサ異常	I / F
F08	F08	—	☀	☀	○	交互	TO センサ異常	I / F
F09	F09	01 : TG1 センサ異常 02 : TG2 センサ異常 03 : TG3 センサ異常	☀	☀	○	交互	TG センサ異常	I / F
F10	—	—	☀	☀	●	交互	室内 TA センサ異常	室内
F11	—	—	☀	☀	●	交互	室内 T F センサ異常	室内
F12	F12	—	☀	☀	○	交互	TS1 センサ異常	I / F
F13	F13	01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側	☀	☀	○	交互	TH センサ異常	IPDU
F15	F15	—	☀	☀	○	交互	室外温度センサ誤配線 (TE1, TL)	I / F
F16	F16	—	☀	☀	○	交互	室外圧力センサ誤配線 (Pd, Ps)	I / F
F22	F22	—	☀	☀	○	交互	TD3 異常	I / F
F23	F23	—	☀	☀	○	交互	Ps センサ異常	I / F
F24	F24	—	☀	☀	○	交互	Pd センサ異常	I / F
F29	—	—	☀	☀	●	同時	室内その他の異常	室内
F30	F30	—	☀	☀	○	同時	人感センサ異常	室内
F31	F31	—	☀	☀	○	同時	室外 EEPROM 異常	I / F
H01	H01	01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側	●	☀	●		圧縮機ブレークダウン	IPDU
H02	H02	01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側	●	☀	●		圧縮機異常 (ロック)	IPDU
H03	H03	01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側	●	☀	●		電流検出回路系異常	IPDU
H04	H04	—	●	☀	●		圧縮機 1 ケースサーモ動作	I / F
H05	H05	—	●	☀	●		TD1 誤接続	I / F
H06	H06	—	●	☀	●		低圧保護動作	I / F
H07	H07	—	●	☀	●		油面低下検出保護	I / F
H08	H08	01 : TK1 センサ異常 02 : TK2 センサ異常 03 : TK3 センサ異常 04 : TK4 センサ異常 05 : TK5 センサ異常	●	☀	●		油面検出用温度センサ異常	I / F
H14	H14	—	●	☀	●		圧縮機 2 ケースサーモ動作	I / F
H15	H15	—	●	☀	●		TD2 誤接続	I / F
H16	H16	01 : TK1 油回路系異常 02 : TK2 油回路系異常 03 : TK3 油回路系異常 04 : TK4 油回路系異常 05 : TK5 油回路系異常	●	☀	●		油面検出回路系異常	I / F
H25	H25	—	●	☀	●		TD3 誤接続	I / F
L03	—	—	☀	●	☀	同時	室内親重複	室内
L04	L04	—	☀	○	☀	同時	室外系統アドレス重複	I / F
L05	—	—	☀	●	☀	同時	優先室内重複 (優先室内に表示)	I / F
L06	L06	優先室内ユニット台数	☀	●	☀	同時	優先室内重複 (優先室内以外に表示)	I / F
L07	—	—	☀	●	☀	同時	個別室内にグループ線あり	室内
L08	L08	—	☀	●	☀	同時	室内グループ / アドレス未設定	室内 I / F
L09	—	—	☀	●	☀	同時	室内能力未設定	室内
L10	L10	—	☀	○	☀	同時	室外能力未設定	I / F
L17	L17	—	☀	○	☀	同時	室外機種不一致異常	I / F
L18	L18	—	☀	○	☀	同時	冷暖切替ユニット系異常	I / F
L20	—	—	☀	○	☀	同時	集中管理アドレス重複	AINET 室内
L28	L28	—	☀	○	☀	同時	室外接続台数オーバー	I / F

点検コード			ワイヤレスリモコン																																																																									
ワイヤード リモコン 表示	室外 7 セグメント表示		受信部ブロック表示			点検コード名			判定機器																																																																			
	補助コード		運転	タイマー	準備中	点滅																																																																						
L29	L29	(スーパーマルチ u シリーズのとき)	☀	●	☀	同時	IPDU 台数異常	I / F																																																																				
		<table><tr><th>No.</th><th>圧縮機 IPDU 1 2</th><th>ファン IPDU 1 2</th><th>IPDU 不良箇所</th></tr><tr><td>01</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1</td></tr><tr><td>02</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2</td></tr><tr><td>03</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2</td></tr><tr><td>08</td><td>○</td><td>○</td><td>ファン 1</td></tr><tr><td>09</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + ファン 1</td></tr><tr><td>0A</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2 + ファン 1</td></tr><tr><td>0B</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 1</td></tr><tr><td>10</td><td>○</td><td>○</td><td>ファン 2</td></tr><tr><td>11</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + ファン 2</td></tr><tr><td>12</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2 + ファン 2</td></tr><tr><td>13</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 2</td></tr><tr><td>18</td><td>○</td><td>○</td><td>ファン 1 + ファン 2</td></tr><tr><td>19</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + ファン 1 + ファン 2</td></tr><tr><td>1A</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2 + ファン 1 + ファン 2</td></tr><tr><td>1B</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 1 + ファン 2</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>IPDU 不良</td></tr></table>							No.	圧縮機 IPDU 1 2	ファン IPDU 1 2	IPDU 不良箇所	01	○	○	圧縮機 1	02	○	○	圧縮機 2	03	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2	08	○	○	ファン 1	09	○	○	圧縮機 1 + ファン 1	0A	○	○	圧縮機 2 + ファン 1	0B	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 1	10	○	○	ファン 2	11	○	○	圧縮機 1 + ファン 2	12	○	○	圧縮機 2 + ファン 2	13	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 2	18	○	○	ファン 1 + ファン 2	19	○	○	圧縮機 1 + ファン 1 + ファン 2	1A	○	○	圧縮機 2 + ファン 1 + ファン 2	1B	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 1 + ファン 2	○	○	○	IPDU 不良
No.	圧縮機 IPDU 1 2	ファン IPDU 1 2	IPDU 不良箇所																																																																									
01	○	○	圧縮機 1																																																																									
02	○	○	圧縮機 2																																																																									
03	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2																																																																									
08	○	○	ファン 1																																																																									
09	○	○	圧縮機 1 + ファン 1																																																																									
0A	○	○	圧縮機 2 + ファン 1																																																																									
0B	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 1																																																																									
10	○	○	ファン 2																																																																									
11	○	○	圧縮機 1 + ファン 2																																																																									
12	○	○	圧縮機 2 + ファン 2																																																																									
13	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 2																																																																									
18	○	○	ファン 1 + ファン 2																																																																									
19	○	○	圧縮機 1 + ファン 1 + ファン 2																																																																									
1A	○	○	圧縮機 2 + ファン 1 + ファン 2																																																																									
1B	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン 1 + ファン 2																																																																									
○	○	○	IPDU 不良																																																																									
		(スーパーマルチ u シリーズ以外のとき)																																																																										
		<table><tr><th>No.</th><th>圧縮機 IPDU 1 2 3</th><th>ファン IPDU</th><th>IPDU 不良箇所</th></tr><tr><td>01</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1</td></tr><tr><td>02</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2</td></tr><tr><td>03</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2</td></tr><tr><td>04</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 3</td></tr><tr><td>05</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 3</td></tr><tr><td>06</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2 + 圧縮機 3</td></tr><tr><td>07</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2 + 圧縮機 3</td></tr><tr><td>08</td><td>○</td><td>○</td><td>ファン</td></tr><tr><td>09</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + ファン</td></tr><tr><td>0A</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2 + ファン</td></tr><tr><td>0B</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン</td></tr><tr><td>0C</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 3 + ファン</td></tr><tr><td>0D</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 3 + ファン</td></tr><tr><td>0E</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 2 + 圧縮機 3 + ファン</td></tr><tr><td>0F</td><td>○</td><td>○</td><td>圧縮機 1 + 圧縮機 2 + 圧縮機 3 + ファン</td></tr><tr><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>IPDU 不良</td></tr></table>	No.	圧縮機 IPDU 1 2 3	ファン IPDU	IPDU 不良箇所	01	○	○	圧縮機 1	02	○	○	圧縮機 2	03	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2	04	○	○	圧縮機 3	05	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 3	06	○	○	圧縮機 2 + 圧縮機 3	07	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + 圧縮機 3	08	○	○	ファン	09	○	○	圧縮機 1 + ファン	0A	○	○	圧縮機 2 + ファン	0B	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン	0C	○	○	圧縮機 3 + ファン	0D	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 3 + ファン	0E	○	○	圧縮機 2 + 圧縮機 3 + ファン	0F	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + 圧縮機 3 + ファン	○	○	○	IPDU 不良						
No.	圧縮機 IPDU 1 2 3	ファン IPDU	IPDU 不良箇所																																																																									
01	○	○	圧縮機 1																																																																									
02	○	○	圧縮機 2																																																																									
03	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2																																																																									
04	○	○	圧縮機 3																																																																									
05	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 3																																																																									
06	○	○	圧縮機 2 + 圧縮機 3																																																																									
07	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + 圧縮機 3																																																																									
08	○	○	ファン																																																																									
09	○	○	圧縮機 1 + ファン																																																																									
0A	○	○	圧縮機 2 + ファン																																																																									
0B	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + ファン																																																																									
0C	○	○	圧縮機 3 + ファン																																																																									
0D	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 3 + ファン																																																																									
0E	○	○	圧縮機 2 + 圧縮機 3 + ファン																																																																									
0F	○	○	圧縮機 1 + 圧縮機 2 + 圧縮機 3 + ファン																																																																									
○	○	○	IPDU 不良																																																																									
L30	L30	検出室内アドレス	☀	○	☀	同時	室内外部インターロック	室内																																																																				
—	L31	—	—	—	—	—	膨張 I / C 異常	I / F																																																																				
P01	—	—	●	☀	☀	交互	室内ファンモータ異常	室内																																																																				
P03	P03	—	☀	●	☀	交互	吐出温度 TD1 異常	I / F																																																																				
P04	P04	01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側	☀	●	☀	交互	高圧 SW 系動作	IPDU																																																																				
P05	P05	00 : 欠相検出 01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側	☀	●	☀	交互	欠相異常・停電異常 インバーター直流電圧 (Vdc) 異常	I / F																																																																				
P07	P07	01 : 圧縮機 1 側 02 : 圧縮機 2 側 03 : 圧縮機 3 側 04 : ヒートシンク	☀	●	☀	交互	ヒートシンク過熱異常 ヒートシンク結露異常	IPDU I / F																																																																				
P10	P10	検出室内アドレス	●	☀	☀	交互	室内漏水異常	室内																																																																				
P11	P11	—	●	☀	☀	交互	室外熱交換結露異常	I / F																																																																				
P12	—	—	●	☀	☀	交互	室内ファンモータ異常	室内																																																																				
P13	P13	—	●	☀	☀	交互	室外液バック検出異常	I / F																																																																				
P15	P15	01 : TS 条件 02 : TD 条件	☀	●	☀	交互	ガスリーク検出	I / F																																																																				
P17	P17	—	☀	●	☀	交互	吐出温度 TD2 異常	I / F																																																																				
P18	P18	—	☀	●	☀	交互	吐出温度 TD3 異常	I / F																																																																				
P19	P19	検出室外機番号	☀	●	☀	交互	四方弁反転異常	I / F																																																																				
P20	P20	—	☀	●	☀	交互	高圧保護動作	I / F																																																																				
P22	P22	0 * : IGBT 回路 1 * : 位置検出回路異常 3 * : モータロック異常 4 * : モータ電流検出 C * : TH センサ温度異常 D * : TH センサ異常 E * : インバーター直流電圧異常 (室外ファン) 注) " * " には 0 ~ F が表示され ますが、無視してください。	☀	●	☀	交互	室外ファン用 IPDU 異常	IPDU																																																																				

7 故障診断 (つづき)

点検コード			ワイヤレスリモコン		点検コード名	判定機器
ワイヤード リモコン 表示	室外 7 セグメント表示		受信部ブロック表示			
		補助コード	運転	タイマー 準備中 点滅		
P26	P26	01：圧縮機 1 側 02：圧縮機 2 側 03：圧縮機 3 側	☀ ● ☀	交互	G－TR 短絡保護異常	IPDU
P29	P29	01：圧縮機 1 側 02：圧縮機 2 側 03：圧縮機 3 側	☀ ● ☀	交互	圧縮機位置検出回路系異常	IPDU
P31	—	—	☀ ● ☀	交互	他の室内異常（グループ子機異常）	室内

集中管理機器が検出する異常

点検コード		ワイヤレスリモコン		点検コード名	判定機器
集中制御機器表示	室外 7 セグメント表示		受信部ブロック表示		
	補助コード		運転 タイマー 準備中 点滅		
C05	—	—	—	集中管理機器送信異常	集中管理機器
C06	—	—	—	集中管理機器受信異常	集中管理機器
C12	—	—	—	汎用機器制御インターフェース一括警報	汎用機器 I / F
P30 (L20)	—	—	(L20 を表示)	グループ制御子機異常 集中管理アドレス重複 ※一部機器の組み合わせにより室内ユニットが検出する場合があります。	集中管理機器

※ I/F、IPDU (インバーター) が判定する点検コードの詳細については室外機の据付説明書をご覧ください。

8 室内ユニット設定確認

お客様に引き渡す前に、据え付けた室内ユニットのアドレスおよび設定を確認し、チェックシート (下表) に記入してください。チェックシートは 4 台分の記入ができます。据え付けたシステムがグループ制御システムの場合は、他の室内ユニットに付属の据付説明書に分けて系統システムごと記入して、ご使用ください。

お願い

据付後のメンテナンス時に必要となりますので、必ずご記入のうえお客様に本据付説明書をお渡しく下さい。

室内ユニット設定チェックシート

室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット			室内ユニット		
形名			形名			形名			形名		
室内ユニットのアドレスを確認してください。(確認方法は、「5. 応用制御」または室外機の据付説明書、リモコンの据付操作説明書を参照してください。) (項目コード系統[12]、室内[13]、グループ[14])											
系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ	系統	室内	グループ
各種設定			各種設定			各種設定			各種設定		
室内ユニットの高天井設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「5. 応用制御」を参照してください。)*室内マイコン基板上のスイッチを切り換えた場合は自動的に設定が変更されています。											
高天井設定 (項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥「0006」			高天井設定 (項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥「0006」			高天井設定 (項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥「0006」			高天井設定 (項目コード[5D]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 標準 「0000」 <input type="checkbox"/> 高天井①「0001」 <input type="checkbox"/> 高天井③「0003」 <input type="checkbox"/> 高天井⑥「0006」		
フィルターサイン点灯時間を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「5. 応用制御」を参照してください。)											
フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」			フィルターサイン点灯時間 (項目コード[01]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> なし 「0000」 <input type="checkbox"/> 150H「0001」 <input type="checkbox"/> 2500H「0002」 <input type="checkbox"/> 5000H「0003」 <input type="checkbox"/> 10000H「0004」		
暖房シフト値を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし]に、変更した場合は変更した[項目]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「5. 応用制御」を参照してください。)											
暖房シフト値設定 (項目コード [06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k (シフトなし)「0000」 <input type="checkbox"/> +1k 「0001」 <input type="checkbox"/> +2k 「0002」 <input type="checkbox"/> +3k 「0003」 <input type="checkbox"/> +4k 「0004」 <input type="checkbox"/> +5k 「0005」 <input type="checkbox"/> +6k 「0006」			暖房シフト値設定 (項目コード [06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k (シフトなし)「0000」 <input type="checkbox"/> +1k 「0001」 <input type="checkbox"/> +2k 「0002」 <input type="checkbox"/> +3k 「0003」 <input type="checkbox"/> +4k 「0004」 <input type="checkbox"/> +5k 「0005」 <input type="checkbox"/> +6k 「0006」			暖房シフト値設定 (項目コード [06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k (シフトなし)「0000」 <input type="checkbox"/> +1k 「0001」 <input type="checkbox"/> +2k 「0002」 <input type="checkbox"/> +3k 「0003」 <input type="checkbox"/> +4k 「0004」 <input type="checkbox"/> +5k 「0005」 <input type="checkbox"/> +6k 「0006」			暖房シフト値設定 (項目コード [06]) <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> +0k (シフトなし)「0000」 <input type="checkbox"/> +1k 「0001」 <input type="checkbox"/> +2k 「0002」 <input type="checkbox"/> +3k 「0003」 <input type="checkbox"/> +4k 「0004」 <input type="checkbox"/> +5k 「0005」 <input type="checkbox"/> +6k 「0006」		
風よけフラップ設定を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし(無効)]に、変更した場合は[有効]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「5. 応用制御」を参照してください。)											
風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」			風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」			風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」			風よけフラップ設定 (項目コード[45]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0002」		
温度センサ切換を変更しましたか。未変更の場合は[変更なし(無効)]に、変更した場合は[有効]に「レ」印を付けてください。 (確認方法は、「5. 応用制御」を参照してください。)											
温度センサ切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0001」			温度センサ切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0001」			温度センサ切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0001」			温度センサ切換 (項目コード[32]) <input type="checkbox"/> 変更なし(無効)「0000」 <input type="checkbox"/> 有効「0001」		
別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み			別売品組込み		
下記別売品を組み込みましたか。組み込んだ場合は各[項目]に「レ」印を付けてください。 (組込時に設定切換が必要なものがあります。設定切換方法は、各別売品に付属の取付説明書をご覧ください。)											
パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])			パネル <input type="checkbox"/> 標準パネル <input type="checkbox"/> オートグリルパネル (項目コード[30]) <input type="checkbox"/> オイルガードパネル <input type="checkbox"/> オイルガードオートグリルパネル (項目コード[30])		
フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター			フィルター <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(65%) <input type="checkbox"/> 高性能フィルター(90%) <input type="checkbox"/> オイルガードフィルター <input type="checkbox"/> デオドラントフィルター <input type="checkbox"/> 超ロングライフフィルター <input type="checkbox"/> 光再生脱臭フィルター		
<input type="checkbox"/> その他()			<input type="checkbox"/> その他()			<input type="checkbox"/> その他()			<input type="checkbox"/> その他()		

-

日本冷凍空調設備工業連合会のホームページ：<http://www.jarac.or.jp/>

東芝キャリア株式会社
〒416-8521 静岡県富士市蓼原336番地

SN:EB99835301